



衣錦尚綱と私について

東 義也

仙台市のとなり名取市にある尚綱（しょうけい）学院大学女子短期大学部保育科の東義也と申します。このたびキリスト教研究所の協力研究員として、皆さま方のお仲間に入れていただきました。心より感謝申し上げます。

私の所属する尚綱学院について紹介させてください。尚綱という校名は、中庸にある言葉で「衣錦尚綱」から来ています。この意味は、人として必要なことはまず「錦を衣（き）る」こと、つまり、錦の似合う人間、錦を着るに価する人間になるということです。豊かな教養を身につけ人間性を磨くともいったらいいでしょうか。次に「尚（なお）綱（けい）を加える」、つまり、錦の上に薄衣をおおうということです。内側に立派な錦を着ていても、薄衣でおおうことによって、それを誇らしげに表に出さない、自慢しないということです。聖書で教える「謙遜」に通じる思想だと思えます。中庸は儒教の思想を現わすものですが、尚綱学院の創立者は、あえてこの言葉をミッションスクールの校名に選びました。後の校長アンネ・ブゼルは、衣錦尚綱の意味が聖書にもあることを紹介し、以来ペトロの手紙第一3章3、4節が建学の精神を表わすみ言葉になりました。「あなたがたの装いは、編んだ髪や金の飾り、あるいは派手な衣服といった外面的なものであってはなりません。むしろそれは、柔和でしとやかな気立てという朽ちないもので飾られた、内面的な人柄であるべきです。このような装いこそ、神の御前でまことに価値があるのです。」

明治学院大学を1984年に卒業した私は、まず児童養護施設に就職しました。子どもたちの孤独や不安、悲しみや苦しみを知ったとき、乳幼児期の保育の大切さを痛感しました。それで退職後、玉川大学の通信教育課程で幼稚園教諭の免許を取得し、今度

はある私立の幼稚園に就職しました。幼児教育を学んでいた時に学んだことは、子どもの遊びの重要性です。ですから、私は子どもたち楽しくて面白い遊びをたくさん紹介し、いっしょに遊びました。それはそれで充実した日々だったと思います。しかし、楽しい遊びがそこに展開されているだけでは不十分であることに気づきました。その中で子どもたちの何が育っているのか、彼らは何を学んでいるのか、そのような子ども理解が私には欠けていることを知りました。

次に私が選んだ道は、静岡大学大学院へ行って保育を根底から学び直すことでした。一体遊びとは何か、これが研究テーマになりました。結論を一言でいうと、「遊びとは自分自身になることである」ということです。子どもたちの自らする行為（その多くは遊び）に意味のないものはありません。おとなには分からなくても、そこには意味があって、これから出会う世界の事柄や人生の選択について彼らはすでに学び始めており、自分自身を形成しているということです。ですから、子どもの主体的に取り組む遊びを最大限に尊重し保障することが、保育の課題だという結論になりました。再び幼稚園や保育園に数年ずつ勤めた後、現在の尚綱学院に導かれました。最近は、「聖書における遊び」「キリスト教保育」についても研究しています。

これまでの人生を振り返りますと、いろいろな職業を転々としてきましたが、どれもこれも無駄で意味のない経験はなく、すべて神様の導きの内にいたことを確信させられています。また、いろいろな大学にもお世話になりましたが、私にとっては明治学院がなんといっても母校なのです。今回、その母校の研究プロジェクトに加えさせていただいたことを神様に感謝しています。どれだけの恩返し・貢献ができるのか不安な部分もありますが、神様の導きを信じて一生懸命頑張る所存です。何卒ご指導のほど宜しくお願い致します。

(ひがし よしや 協力研究員)